

平成27年度 第1回函南町立図書館協議会 議事録

- 1 日 時 平成27年7月15日(水) 15時～17時
- 2 会 場 函南町立図書館 2階 研修室
- 3 出席者 委員 山邊 義彦 学校教育関係者
富永 和彦 学識経験者
今泉 良三 社会教育関係者
石田 和久 学識経験者
中村 忠和 社会教育関係者
酒井 大二郎 学校教育関係者
稲葉 優子 家庭教育活動者

事務局 山下 雅彦
大沼 裕幸
西澤 文雄

- 4 公開・非公開 公開
の 別
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容

- (1) 委嘱状交付
- (2) 山下雅彦 生涯学習課長 挨拶
大沼裕幸館長 挨拶及び図書館協議会の設置及び趣旨説明
- (3) 報告事項 西澤より資料に基づいて説明した後、各委員より意見を伺った

① 平成26年度函南町立図書館の事業報告について

平成25年度と平成26年度の利用状況を比較しますと、来館者数（図書等の貸出返却をしない人数も含む）については1,869人減少していますが、利用者数（図書等の貸出返却をした人数のみ）については7,880人増加しました。また、貸出冊数についても28,624冊増加しました。

年齢別利用人数では、7歳から12歳が2,824人減少し、60歳以上が5,275人増加しました。年齢別利用冊数についても、7歳から12歳が8,246冊減少し、60歳以上が17,268冊増加しました。

今後、7歳から12歳の利用の増加を図っていくことが課題であります。

地区別の利用状況については、平成25年度と平成26年度を比較して、函南町外の利用人数が7.7%増加し、利用冊数は8.3%増加しています。

平成25年度に伊豆縦貫自動車道が開通したこと、平成26年度に伊豆市及び裾野市との相互の利用協定を締結したことが要因ではないかと思えます。

平成26年度の実施事業報告については、4月13日に知恵の和館1周年記念式典を行いました。5月からは中学生の職業体験、中学校の新任教諭研修、小学生・中学生の図書館見学を実施しました。また、夏休みには、「夏休みわ

くわくまつり」として工作教室やパネルシアターを実施し、冬休みには「冬休みわくわくまつり」として、絵本『100かいだてのいえ』の作者である、いわいとしおさんを招いて体験型講座を実施しました。

広報については、平成26年度から「函南図書館だより」を毎月発行し、展示については、特集するテーマを毎月考えて館内に展示しています。

おはなし会については、毎週火曜日・木曜日を基本として実施しています。

ボランティア関係では、音訳ボランティア養成講座を開催しました。

また、読み聞かせサポート隊として、学校での朝の読み聞かせをサポートする事業にも取り組みました。

平成26年度の購入冊数・金額の内訳については、一般書（地域資料含む）6,340冊9,904,967円、児童書1,480冊2,448,252円、雑誌1,628冊993,312円、視聴覚資料177点984,561円、合計で9,625冊14,331,092円となりました。

平成26年度中に寄贈を受けた資料数は1,801冊、除籍した資料数は4,758冊で、平成26年度末の資料数は118,902冊となりました。

各委員より

委員 来館者数のカウントについて、ゲートを通るとカウントされるということですが、同じ人が入ったり出たりする場合もカウントされるのですか？

事務局 カウントされてしまいます。来館者数は目安として統計をとっています。実際に重要なのは貸出や返却をされた利用者数であり、機械で処理をしていますので実際の数字ということと考えていただければと思います。

委員 中学生、高校生の利用冊数が極端に少なくなっていますが、この現状はどこの図書館も同じなのでしょうか？

事務局 公立図書館ではYA（ヤングアダルト）という表現でこの世代をくくっていますが、YA世代の利用をどう促進させようかというところは、公立図書館全体の課題となっています。当館ではYA向けの特集展示コーナーや職場体験に来た中学生にお薦めする本を選んでもらって、その本を展示したりしています。いろいろと試行錯誤しながらやっておりますが、実際には数字が伸びてこないのが現状です。

議長 課題として認識されていて、改善するよう取り組んでいるようですが、なかなか難しいところではあると思います。

事務局 特に中学生、高校生は部活があったり、ほとんどの中学生は塾に通ったり、また、全国学力テストの結果がどうだとか、いろいろと学校の授業以外にも、とにかく忙しい日常生活を送っているように思います。それが理由で図書館の本が読めないということではないのかもしれませんが、現状としてはそういう部分もあるのではないかと感じています。高校生に関しても、勉強が手一杯で、なかなか図書館の本を読む時間がない、また、部活もありますし、高校2年が終わると受験に向けて受験勉強が始まりますので、そんな状況が背景にはあるのかなと感じています。

議長 委員から意見が出されましたので、魅力ある方策を考えていただいて、進

めていただければと思います。

委員 おはなし会にボランティアで参加している立場でお話させていただきますと、毎週2回実施していますが、1回当たりの参加人数は少ないと感じています。週2回実施していることで来てくれる人が分散されてしまっているのか、実施している曜日や時間に問題があるのか、どうなのだろうと思うところはあります。

事務局 火曜日と木曜日の昼間に実施しているので、小学生や幼稚園児、保育園児は参加できませんし、夏休みや冬休みは別ですが、就学前の児童が中心となってしまいます。先日、読み聞かせのボランティアの人から、休日の土日に読み聞かせを計画されてはどうですかというご意見をいただきました。今は火・木曜日で軌道に乗っていますが、さらに参加を増やすことを目的に実施することは大変好ましいとは思いますが、定期的な土日にやろうとした場合、ボランティアの確保が難しいところがあります。事前にボランティアの予定を把握して実施することも視野に入れて考えていきたいと思っています。

議長 おはなし会は子育て交流センターで行っているのとは違うのですか？

事務局 おはなし会を別々にやっているということになります。その中で子育て交流センターで毎月行われているお誕生会に、図書館の読み聞かせボランティアが行って、お誕生会のお楽しみの一つとして読み聞かせを行ったりしています。これは図書館と子育て交流センターが併設しているメリットとして協力して行っています。

② 平成27年度の事業計画について

平成26年度に実施してきた事業を継続していきます。その中で桑村小・丹那小への出張貸出の試行について、小学校世代の利用の促進を図るとともに、桑村小・丹那小は地理的に図書館に来ることが困難であることから、試行的に行っております。6/2に桑村小、6/5に丹那小で実施しましたが、年度内にあと1回ずつ実施したいと考えています。

夏休みわくわくまつりとして、子育て交流センターとの共催事業で、1日知恵の和館全体でイベントを実施します。図書館のメインイベントとしては、絵本作家のスギヤマカナヨさんをお招きして、体験型講座を実施します。

冬休みには冬休みわくわくまつりを例年通り開催する予定です。

秋の読書週間については、学校との連携事業としてイベントを実施します。児童、生徒が作成した読書郵便や本の帯等を図書館に展示する予定となっています。

委員 主張貸出については1回実施して、その変化や子ども達の期待感というものもありますので、是非継続して実施して欲しいと思います。また、桑村小・丹那小以外の学校にも広めていくことも必要だと思っています。

秋の読書週間については、学校と図書館と連携して、課題である中学生や高校生の利用促進を図っていただきたいと思います。

(4) 協議事項 大沼館長より説明した後、各委員より意見を伺った

① 町民の読書推進を進めるために、遠隔地対策として図書館基本計画の中にも盛り込まれている移動図書館の導入が計画されています。昨年度3月の協議会の場でも説明させていただきましたが、基本計画策定段階では移動図書館の車体の購入は宝くじの助成があったので、町の持ち出しがない状態で調達できた時代でありました。その後民主党政権となり事業仕分けによって、この助成は対象外となってしまいました。今後移動図書館を導入しようとする導入経費約1,700万円、運用経費として約300万円程度かかる見込みです。

一方で、平成22年に行われた施設の管理運営方針検討委員会の提案書の中で、移動図書館の実施希望が2割程度しかなかったことも考慮し、導入にあたっては投資効果も含め慎重に検討する必要があるとしています。

委員の皆さまにこれからご意見をいただきたいのですが、その前に移動図書館を導入しなかった際の代替案を提示させていただきます。①遠隔地学校への出張貸出、②現在、町で計画を進めている町内公共交通システムの活用、③遠隔地にお住いでかつ高齢者への宅配サービスの3点を取り入れながら移動図書館の代替えとなるようにしていけたらと事務局としては考えています。また、遠隔地対策の他に高齢者対策及び身障者対策にも力を入れていき、町民の読書推進を進めていきたいと考えています。

各委員より

委員 近くの公民館に移動図書館が来ると、地域の人達との交流が生まれたりと、図書の貸出以外にもメリットはあると思うので、導入も視野に前向きに検討してもらいたいと思います。

委員 移動図書館があればいいのはもちろんなのですが、個人的には縮小傾向なのかと思います。移動図書館に経費を投入するなら、この図書館に経費を投入した方が充実するかと思います。

委員 宅配サービスについて、これからの社会生活にマッチしていくものだと思います。今後有効に活用して欲しいと思います。

委員 移動図書館は初期の導入費用がかなり掛かるので、費用対効果を考えると、事務局から説明のあった3つの代替案で進めた方が時代に合っていると思います。

事務局 資料の地区別の利用者数の集計表を見ていただきますと、遠隔地であるダイヤモンドの利用はかなり多くなっています。ダイヤモンドだけが特別なのかもしれませんが、遠隔地だから来館できないということではないのかもしれませんが。

委員 移動図書館の実施希望が2割程度という説明がありましたが、この2割程度とは地区別に集計してあるのですか？

事務局 地区別にはしてないと思います。おそらく無作為だと思います。

議長 意見のまとめとしては、移動図書館の費用対効果は見込めないのですが、代替案の中身をもう少し研究していただいて、広げていくことが町民にとってはよい方法であり、読書推進になると思います。

(5) その他

委員 Windows10の導入予定についてお聞きしたい。

事務局 今のところ導入の予定は考えていませんが、バージョンアップは1年以内であれば無料ということになっているようです。システムを導入した業者に確認をして検討したいと思います。

- (6) 閉会 第2回の協議会について、例年ですと3月に行っていましたが、今年度もその予定ではおりますが、移動図書館の関係で、町民参加型の検討委員会等の協議の結果、移動図書館の導入を検討するようになった場合は、秋頃に協議会を開催し、協議会としての意見を再度お聞きする可能性があるかもしれませんので、その時はお願い致します。